

株式会社 日本政策金融公庫（農林水産事業） 御中

住所:▲県○市×町1-1-1
名称(氏名):株式会社農場ファーム
代表者:代表取締役 ▲×

印

経営ビジョンシート

事業性評価融資を希望しますので、本ビジョンシートを提出します。

1 経営理念〔モットー〕

〔農業経営を行っていくことで何を達成したいのか、また、経営において大切にしている考えは何かについて記入〕

- ・ 農業を「生命創造産業」ととらえ、消費者に主食である安全・安心なお米を供給する責任を果たす。
- ・ また、多面的機能を有す農地を守るとともに、地域雇用の創出、地域経済の発展に貢献する。

2 経営の強み・弱み

〔“強み”：自らの経営の「売り」となる要因や、自らの経営だから出来ることを記入〕

〔“弱み”：自らの経営の成功（成長）を阻害する要因や、同業他社と比較して劣っている事柄を記入〕

項目	強み	弱み
生産	経営規模	
	立地	・ 農地が分散している
	生産量 (単収)	
	品質	・ 1等米比率90%超 (地域平均70%)
	その他 ()	
仕入	・ 協力農家と資材の共同購入による コスト削減	・ 集荷する米は買い取り方式
加工	・ 6次化法の総合化計画認定	・ 直売所の販売物の廃棄が多い
販売	・ 系統外出荷100% (卸売り業者に 直接販売) ・ 他社に先駆け米の輸出を実施し、 販路を構築している	
組織体制	・ 営業専任の担当者張り付け	
財務		・ 米買い取り時の資金繰り ・ 少ない自己資本 (債務超過)
設備 (機械・建物)		・ 既存乾燥調製施設の老朽化
人材労務	・ 法人設立後 (8年目) 離職者なし	
その他 ()		

様式 1

3 将来ビジョン〔目指す経営の姿〕

〔将来的に目指す経営について、経営規模、売上、利益、取組（販売・輸出・加工等）について、記入〕

ビジョン1	○農地の受け皿として、農地集積・規模拡大を図るとともに地域の雇用維持を図る。 事業目標：目標年（H33年）には、3.5億円超の売上高を目指す。
ビジョン2	○米の国内需要が減少する中、新たな需要を確保するために、米の輸出に積極的に取り組み、水田を農地として活用することで、農業の持つ多面的機能の維持・発揮を図る。 事業目標：現状10t（約2百万円）を10年後（H38年）250t（約50百万円）。

4 将来ビジョンを達成するために今後取り組む事項〔経営戦略〕

〔上記の将来ビジョンを達成するための具体的な取り組み（今後の経営戦略）を記入〕

将来ビジョン	達成するための取組事項	実施開始・達成(目標)時期
ビジョン1： 農地集積による規模拡大と販路の確保 担当者：代表取締役	◇老朽化したライスセンターの更新（建設） ◇人・農地プランの話し合いへの積極的参加 ◇営業担当職員を1名増員 ◇既存取引先別の当社の販売シェアやニーズの把握 ◇アグリフードEXPO等の商談会への出展	【実施開始年】 平成27年10月 【達成(目標)年】 平成33年12月
ビジョン2： 輸出米の販路拡大 担当者：代表取締役	◇株式会社〇×との販売契約の締結 ◇トライアル輸出（テスト販売）の実施 ◇輸出対象国の増加	【実施開始年】 平成27年10月 【達成(目標)年】 平成38年12月

5 今回の事業概要

〔上記の将来ビジョンを達成するために今回実施する事業の概要を記入〕

事業内容	今回の事業内容を具体的にご記載ください(例：牛舎建設(〇棟・約〇㎡)+初任牛200頭の導入)		
	輸出を含むコメ乾燥調製（ライスセンター）の建設 (処理能力：現状・約150ha ⇒ 目標・300ha)		
	設備資金		運転資金
	公庫資金	350,000千円	千円
	その他(〇×銀行)	0千円	50,000千円
	補助金	0千円	千円
	自己資金	0千円	20,000千円
合計	350,000千円	70,000千円	
事業動機	(事業を実施する動機)		(効果)
	今回の事業を行う理由は… ・ 農地集積が急激に進み、既存の乾燥調製施設の規模ではH28年産米より処理能力が追いつかない状況。 ・ また、既存の乾燥調製施設は昭和50年に建設したもので、老朽化に伴う更新が必要な時期である。 ・ 輸出についても現在約10t程度取組んでいるが、今回の設備投資を契機に数量を増やしていきたい。		今回の事業実施により… ・ 今回の設備投資により、ボトルネックとなっている乾燥調製の処理能力が格段に向上。 ・ 乾燥調製を集約することで、物流コスト等の削減も図られる。
担当者・取組体制(外部を含む)	今回の事業を行う際の担当者を取組体制は… 担当者（代表取締役）：農地集積に係る地域との調整 担当者（代表取締役及び〇▲取締役）：資金調達に係る公庫、〇×銀行との調整 担当者（〇×営業部長）：規模拡大分の販路確保・営業活動（荖頭中心）。		
実施時期	資金必要時期：平成28年3月 着工：平成27年12月 竣工：平成28年6月 その他（ ）：平成 年 月		
課題・懸案事項	今回の事業実施にあたる課題、または懸案事項は… ・ 輸出について、中国に現地法人を有している（株）〇×と連携して、販路確保を見込んでいるが、現状では最大でも100t規模と想定しており、今後の輸出米の販路を拡大が課題。		

経営発展プラン

平成27年9月15日

○経営理念[モットー]

経営理念	農業を「生命創造産業」ととらえ、消費者に主食である安全・安心なお米を供給する責任を果たす。 また、多面的機能を有す農地を守るとともに、地域雇用の創出、地域経済の発展に貢献する。
------	---

○将来ビジョン[目指す経営の姿]

将来ビジョン	○農地の受け皿として、農地集積・規模拡大を図るとともに地域の雇用維持を図る。 事業目標：目標年（H33年）には、35億円超の売上高を目指す。 米の国内需要が減少する中、新たな需要を確保するために、米の輸出に積極的に取り組み、水田を○農地として活用することで、農業の持つ多面的機能の維持・発揮を図る。 事業目標：現状10t（約2百万円）を10年後（H38年）250t（約50百万円）。
--------	--

≪今回の事業内容≫

事業の内容	乾燥調製（ライセキ）の建設 （処理能力：現状・約150ha⇒目標・300ha）	投資額 （事業費）	設 備 350百万円 （内、公庫350百万円）
		運 転 資 金	70百万円 （内、公庫0百万円）

○今後の経営戦略・戦略実施の課題

		外部環境	
		機会(O)	脅威(T)
内部環境	強み(S)	【積極的な攻勢】 ① ≪戦略≫ 農地集積による規模拡大 米乾燥調製施設の更新による処理能力の向上 ≪戦略実施の課題≫ 経営の規模拡大に伴う農地集積の計画策定と進捗状況の確認 （担当者：代表取締役）	【差別化の促進】 ② ≪戦略≫ 商品の差別化による販売力強化 J-GAPを生かしたブランド化 ≪戦略実施の課題≫ 商品のブランド化による付加価値向上 （担当者：▲取締役）
	弱み(W)	【段階的な着手】 ③ ≪戦略≫ 老朽化した施設の再整備による効率化 保管倉庫の設置の検討や外部委託業者の見直しによるコスト削減 ≪戦略実施の課題≫ 米の保管方法の見直しによるコスト削減 （担当者：代表取締役）	【専守防衛】 ④ ≪戦略≫ 収益構造を改善 収量低迷の原因分析と対策（生産技術や品種の導入等）を図る ≪戦略実施の課題≫ 収量安定化に向けた対策と生産技術の導入 （担当者：○▲取締役）

私は、本経営発展プランの実現に向けて、アクションプランを実行することを誓約します。

住所：○▲×県□□市・・・

名称（氏名）：株式会社 農場ファーム

代表者：代表取締役 ○▲× 印

○アクションプラン

戦 略	具体的な行動計画 進捗状況の報告
①	【具体的な行動計画】 平成27年12月：農地集積の計画策定（いつ・どれだけ集積するのかの計画策定） 平成28年4月：計画との対比（検証）と対策の検討 平成29年度以降：毎年の計画の進捗確認と対策の検討 【進捗状況の報告】 平成28年1月：作成した農地集積の計画提出 毎年5月ごろ：進捗状況の検証結果と今後の対策の報告
②	【具体的な行動計画】 平成27年12月：既往先の次年度の取引意向確認・整理 平成28年2月：販売先・方法などの方針策定、営業先リストアップ、 『アグリフード EXPO大阪出展』 平成28年3月：営業職員を1名増員。リストアップした先への営業強化 平成29年2月：販売先別の収益の試算、H29年産の販売方針策定 【進捗状況の報告】 平成28年3月：確定した販売先・方法などの方針について報告 平成28年12月：販売結果の概要報告 平成29年3月：販売先別の収益資産の結果、H29年産の販売方針の報告
③	【具体的な行動計画】 平成28年2月：外部保管業者の見直し（立地・コスト等を検証）、 農協の遊休倉庫活用を打診 平成28年5月：保管施設の決定 平成28年10月：次年度以降の方針決定（H29年産） 【進捗状況の報告】 平成28年3月：保管施設の見直し方針の報告 平成28年6月：保管方法等に関する報告 平成28年12月：H29年産の方針報告
④	【具体的な行動計画】 平成28年1月：普及センターと連携して過去3か年の収量低迷の原因分析と対策検討 ※②ブランド化の方向性と併せて品種・栽培方法等を検討する 【進捗状況の報告】 平成28年2月：収量低迷の分析結果と対策の報告 ※（確定後）品種・栽培方法等の導入結果の報告